NO. 14

# 泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
07248(3)4653

昭和57年 11月18日発行

## ”東京女子マラソンについて“

会長 逵 健三

「ソ連圧勝する日本期待の佐々木選手優勝ならず」これは新聞の見出しであります。私はマラソンのテレビを見ようと山行に誘われておりましたがそれもやめて、正午よりテレビを見ておりました。冒頭にゴ、マン美希さんの解説に「このマラソンはジョギングより始まって、今日のマラソン大会になったのでありまして、それはよい事ですがジョギングということは健康遊びであるという事を忘れないでほしい。健康健康といって走って体をこわしてはなにもならない。あくまでも健康、遊びであると充分わきまえて続けてほしい」と述べておりました。私は全くその通りだなあと思い、テレビを見ておりました。さて、内容といえば迫力のあるものでした。ソ連選手のたんたんとしたフォーム訓に力強い、沿道の人々の応援、皆が「頑張って〳〵」といっておりますが、走っている本人にとっては、実に苦しいものであります。（いや、マ楽しからずやですか）高校生倉橋選手三十五キロ地点を目前にして、しりもちをついてどうしても立てない。沿道の人達が笑っておりましたが、私には笑えない。よく健斗したものだと思います。又、ゴール手前でよう〳〵と歩く人、精根尽きたという感じ、かくまで根性を出すとは日頃のトレーニングだなあと思いテレビを見終る。

さて、走り終えてからの各選手の言葉、三位のラングラ選手「記録は満足できません」四位でゴールし、がっくりする佐々木選手「スタミナ不足でした」。松田選手「苦しかった」バーバラ選手「前半がよかったんですが…」長谷川選手「まずまずです。自己最高を破れなかったが、完走できればいつも満足」ケニヤのナリー選手「左胸がひきつってしゃべれない」金子選手「もう歩こうと思ったでも沿道の人たちの拍手に最後までやろうと頑張った」このように苦斗をのべておりました。しかし、私等から見れば上位記録の彼女らは、プロです。そのプロですらスタミナ不足練習不足、ペースの配分のむずかしさと言っております。このようにトレーニングするという事は、いかにむずかしいかと思い知らされました。

会員の皆様には色々理由はありましょうが初心忘れず、ランニングを続けて頂きたいものと思います。「初心不可忘」、練習を続けるという事は並大抵ではありません。体の故障、足の故障は続出するでしょう。それ等に打ち勝って強い柔軟な体を作らねば、この世の中は、渡れません。私達は体が資本です。ストレス解消節力増強、「健康遊び」だということを忘れないで下さい。この頃、例会に皆様の集まりが少ない。勤務の都合、又会社の交際、これは仕方がありません。が、所詮ランニングは自己との闘いです。「走る仲間づくりのいろいろ」という本も読み、それこそいろいろ仲間づくりについて考えておりますが、走る人がなければ、これは仕方ありません。

「ランニングは自己との闘いです」或る阿呆な男は東京マラソンの行なわれる朝六時より大鳴山むけて、出発した。そして、横道にそれて林道を走り続け、十時二分に帰って来た。腹はへるし先週の和泉山脈縦走の疲れがとれていないのか、息も絶え〳〵であった。なんでこんな事するのか、七五三の宮参りの父兄に笑われました。私も笑った。まさしく阿呆な男だ。

来年のランニングの案内、あちこちから来ております。どうしようかなあと家内と経済に相談、楽しんでおります。所詮遊びであります。

## 『フルマラソン初挑戦』

石田昌之

一年足らずでフルマラソンに挑戦、見事完走し、ゴールした時の気持ち、言葉に出せない感激と喜び。フルマラソンとは三十キロからハプニングが続出。初めての挑戦にしては上出来であった。みなさんもがんばってフルに挑戦しょう。

（ゴールの感激、ひとしおだった）

僕の錦帯橋フルマラソン初挑戦
タイム 三時間十七分四十一秒
順位 七三位でした。

次回定例ランニングは
十一月二十一日(日) 九時、新家公民館
にて行ないます。

前回東仙峡マラソンの結果
一位、野添氏　二位、栗野原氏
三位 逵氏　四位 石橋
五位 八島氏
全員完走